

第7章 地域別構想

本章においては、全体構想を踏まえつつ、「市民生活に身近な広がりでのまちづくり構想」すなわち「地域別構想」を定めます。

1 地域別構想の策定方法について

地域別構想の草案作成においては、平成19年度の市民アンケートを踏まえるとともに、「市民が日頃から感じている、まちの良い点・悪い点や、まちづくりに対する意見等を直接聞き、行政では気がつきにくい視点を持ちながら一緒に検討したい」と考えました。

そこで、公募による市民代表30名と市役所若手職員等の合計約60名で、都市計画区域に關与する8小学校区ごとにグループをつくり、ワークショップ形式で検討を進めました。



ワークショップは、小学校区ごとの8グループとも市役所大会議室に一同に会し、他のグループの作業内容や各回の発表をお互いに見聞きしながら、右に示す計5回のプログラムで実施しました。



前方スクリーン
.....

豊川	松橋	豊福	当尾
河江	小野 部田	小川	不知火

主な検討の流れは、右図の赤矢印に示すように、8校区それぞれでの、

「まちの良いところ・悪いところの再確認」
↓
「将来のまちの骨格（案）の図面化」
↓
「将来像や将来人口規模についての検討」

です。

この、市民代表の方々と検討した草案をもとに、地域別構想の策定を進めました。

第1回 -10/28（火）

- ①WSの全体スケジュール案の説明
- ②都市マスとWSについての説明
- ③宇城市の都市計画の概要説明
- ④グループ内での自己紹介
- ⑤タウンウォッチングルートの検討

第2回 -11/8（土）

- ①プログラムの説明
- ②前回検討結果の確認
- ③タウンウォッチング
～ 昼食 ～
- ④マップの整理
- ⑤グループ発表

第3回 -11/26（水）

- ①プログラムの説明
- ②前回検討結果の確認
- ③地域カルテの説明
- ④構想図素案の骨格づくり
- ⑤グループ発表

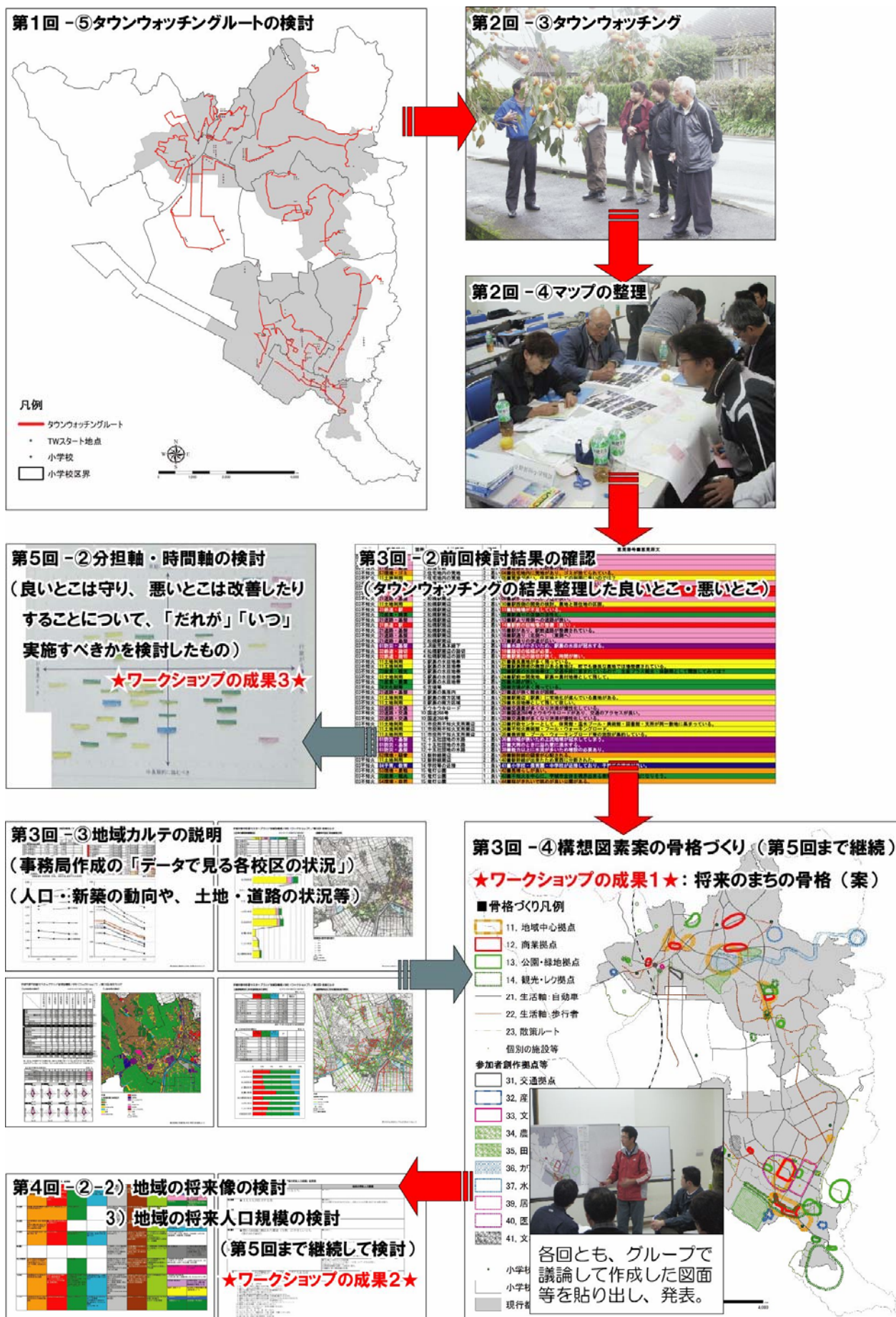
第4回 -12/11（木）

- ①プログラムの説明
- ②構想図素案の仕上げ
 - 1) 他地域案や全体構想との関連検討
 - 2) 地域の将来像の検討
 - 3) 地域の将来人口規模の検討
- ③グループ発表

第5回 -12/18（木）

- ①プログラムの説明
- ②タウンウォッチング結果に基づく
分担軸・時間軸の検討
- ③構想図素案の確認
- ④地域の将来像、人口規模の検討
- ⑤グループ発表

【地域別構想の草案作成のための市民ワークショップの概要】



2 地域区分について

地域別構想における“地域”は、「地形等の自然的条件、土地利用の状況、日常生活上の交流の範囲等」を基本的な考え方としつつ、国が示す「1ないし複数の小学校区程度の広がり」に留意するとともに、今回の「小学校区ごとの市民ワークショップを踏まえた地域別構想の策定」を行うため、以下の3地域に区分しました。

【西部地域】（不知火・松橋・豊川の3校区）

松橋駅東西の市街地等を中心として、一体のまちの広がりをはなしている不知火校区と松橋校区、および、現行の都市計画区域や、用途地域の連なりを考慮して、豊川校区を加えた3校区からなる範囲を1つの地域として設定します。

【東部地域】（当尾・豊福の2校区）

国道3号沿道の市街地等の連なり、および、その後背の農地や山林の広がりといった類似する土地利用構成を持つ、当尾校区と豊福校区の2校区を1つの地域として設定します。

【南部地域】（小野部田・河江・小川の3校区）

既存商店街や大規模商業施設の集積地を中心として、その周囲に農地や山林の広がる、小野部田校区・河江校区・小川校区の3校区を1つの地域として設定します。

